

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	佐賀市立循誘小学校
1 前年度 評価結果の概要	・朝読書の取組により、落ち着いた雰囲気朝をスタートすることができるようになり、学習態度も良好であった。来年度はこの状況を継続しつつ自ら学習に取り組めるような授業づくりを目指す。 ・心の教育については、今年度の取組を継続しつつ、児童会活動等での「出番・協働・承認」の場を設定していく。 ・教職員の働き方改革については、職員の意識改革が進んできているため、継続して取り組む。また、PTAについては来年度会の持ち方について再検討していく。 ・特別支援教育については、来年度も全職員での共通理解と早期対応を目指していく。

2 学校教育目標	夢をもち 仲間とともに 学びを深める 子どもの育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	①思いやりの心をはぐくむ教育の推進 ④学校課題への対応強化 ②楽しく分かる授業の展開 ③子どもの自尊感情を高める取組
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○12月の県学習状況調査において、4、5、6年生の国語と算数を対比1.0ポイント以上	・共通実践(児童に「問い」を持たせるための授業づくりと表現活動の充実)を意識した授業実践を行う。 ・自主学習への取組と内容の充実を図る。 ・校内研究の推進を図る。	B	・学力向上対策評価シートマイプランの成果指標を達成している教職員の割合は96%であった。 ・12月の県学習状況調査において、対県比で4年国語(1.01)・算数(0.88)、5年国語(1.02)・算数(0.92)、6年国語(0.96)・算数(0.87)となった。算教科を軸とした校内研究の推進を図る必要がある。 ・自主学習を提示し、意欲の向上に努めた。今後は内容の検討を行う。	B	・授業を参観して、どのクラスも落ち着いた雰囲気があり、良い傾向であると感じている。 ・県調査で県平均に到達していない学年や教科があるが、学校(職員)の取組は理解できる。今年度の取組を継続してほしい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター	
		○読書の奨励	○年間貸出冊数(多読賞一低:120冊、中:110冊、高:90冊以上)について、達成率68%以上	・朝読書に全校で取り組む。 ・図書館まつりを中心としたイベントを工夫したり、本の紹介をしたりして、本への興味・関心を高める。	A	・12月までの年間貸出冊数の達成率は、80.1%だった。 ・図書館オリンピック達成者を図書館だよりに載せること、プラス券や葉をプレゼントすることで、本を借りたいという意欲を高めることができた。	A		・図書館まつりなど図書館を訪れる機会があることで、図書館や本への関心が高まると思う。 ・今年度一人一台端末の活用が進められている。今後は読書指導に端末を生かしてほしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級担任全員が、授業参観において年1回以上道徳の公開授業を行う。 ○「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・児童生徒支援教員と連携を図り、道徳の授業の充実を努める。 ・善行紹介「名人紹介」を継続するとともに、質の向上を図る。	A	・2学期に全クラスで道徳の公開授業を行うことができた。 ・「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童は95%だった。 ・12月の人権集会では全員がいじめ防止の標語に取り組み、人権についての理解を深めた。 ・名人紹介では、異学年の良い見つけ紹介できるようになってきた。	A	・互いの良さを見つめるのは良いことである。自分たちも引き続き地域や登下校時に児童の善行を見つけたときは、紹介していきたい。 ・「心の教育」への取組は大変重要で意義あるものだと思ふ。今度も取組を継続してほしい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校で楽しく過ごしているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上 ○毎月の児童アンケート、2か月に1回の保護者アンケートの実施。	・子ども支援部による情報の一括管理と共通理解に基づいた支援を行う。 ・各種アンケート結果からの早期対応を行う。 ・教育相談週間を設定する。	A	・児童アンケートは、95.2%という結果で、目標値を大きく上回っていた。部会でアンケート結果を共有したことで、児童の微妙な変化にも気付くことができた。 ・教育相談週間を実施したことで、児童の実態や悩みなどを把握し、教育活動に生かすことができた。	A	・児童アンケートを部会で共有するのは大変良いと思う。 ・保護者アンケートのいじめに関する項目はもちろんだが、地域での子供の様子に関する項目で保護者から情報を提供してもらうことで、日々の教育活動に生かされていくと思う。 ・登下校の様子から児童の様子うかがえることも多い。今度も地域でも子供を育てていきたい。	・生徒指導担当 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員 ・教育相談担当	
		○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「自分の夢や目標に向かって努力しているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・各学年に応じたキャリア教育を充実させる。 ・学校行事や児童会活動を中心に「出番・協働・承認」をキーワードとして、活躍の場を設定する。	B	・児童会活動では、活動や集会内容をみんなで考えながら進めた。コロナの状況に応じて、集会の形態を変え、児童の出番が減らないように工夫した。 ・児童アンケートは、肯定的回答の目標値90%以上に対し、90%という結果であった。 ・キャリア教育について各学年で取り組むことができた。しかし、保護者への紹介の機会はなかった。	B	・学校行事や委員会活動など、児童の活躍の場があるのは良いことである。今年度もコロナの影響があったと思うが、できる限りのことをやっていると思う。	・キャリア教育担当 ・特活主任 ・体育主任
		●望ましい生活習慣の形成	○「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童85%以上	・感染症、熱中症、インフルエンザ対策について、全校で予防法を確認する。 ・保健だより等で注意喚起を促す。	A	・「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童は89%で目標を達成することができた。 ・放送や保健だよりで注意喚起をし、児童集会で再度手洗いを含めた感染症予防の確認をした。	A	・コロナも含む感染症対策は今後も十分行っていきたい。 ハンカチやタオルは個人使用でということ徹底してほしい。そのために、ハンカチ・ティッシュの持参などは、毎日確認することが大切である。教室にも対応できよう準備してもらえると有り難い。	・養護教諭 ・保健主事
●健康・体づくり	○安全に関する資質・能力の向上	○防犯ブザーの所持率85%以上 ○集団一斉下校の集合時間15分以内を毎回達成する。 ○「携帯電話等の使用について親子で決めたルールを守っている」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・防犯ブザーの所持について、下校指導で毎日確認する。 ・避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、児童の命や安全に対する意識の向上を図る。特に、避難訓練については、予告なし訓練や1年生の引渡し訓練を実施する。 ・SNSに関する児童・保護者向け講演会を実施する。また、学期に1回ずつ情報モラル教育を学級で実施する。 ・学校便りによる啓発を行う。	B	・防犯ブザーの所持率は84%で、目標値にわずかに及ばなかった。一斉下校時だけでなく、学年で毎日の下校時刻をそろえたことも、児童の危機管理意識を高める一因となった。 ・避難訓練は計画通りに実施できた。担当者だけでなく、部会で案を練ったことで、実りある訓練となった。 ・携帯電話等のルールの遵守について、肯定的な回答をした児童は85%であった。学期に1回の児童への情報モラル教育と共に、4・5・6年生の保護者対象に外部講師による講演会も実施した。	B	・防犯ブザーについては、所持することへの指導も大切だが、ブザーが鳴るかどうかを定期的に確認することも必要である。危機的状況になったときに鳴らないようなことがないようしてほしい。また、鳴らし方(引き具合)についても本人が知っておく必要がある。 ・携帯電話等のルールについては、児童の意識と保護者の意識にズレがあるようだ。児童だけでなく、保護者に対する啓発を今後も続けてほしい。	・生徒指導担当 ・安全教育担当	
		●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外登校等時間の上限を遵守する。 ○年次休職を年間10日以上取得した教職員70%以上	・通勤予定時刻を毎朝記入し、見直しをもって業務を行う。 ・勤務をリーダーとして「働き方改革」を継続し、資料・会議等のデジタル化を進める。 ・学校閉庁日の設定、長期休業中の研修等の精選を行う。	B	・通勤予定時刻を意図し業務の遂行に努めた。定時退勤日(金)を設定することで、時間外登校等時間の上限の遵守を目指した。しかし、全員が達成できた月は少なかった。 ・学校閉庁日を設定し、長期休業中の研修等の精選を行うことで、各種休暇の取得率の促進に努めた。(年休:年間10日以上取得した職員74%) ・職員会議資料は基本的にデータファイルでの確認と、必要に応じて紙媒体で配布した。	B	・今後も働き方への意識をもって仕事にあたってほしい。 ・働きやすい職場を意識してほしい。	・管理職 ・教務主任
		○PTAの働き方改革	○PTAの会議等を昨年度の8割にする。	・年間行事を基に、本部役員会と運営委員会の開催回数と開催時期を検討する。	A	・次回の役員会内容を検討し、必要性がない月は中止とした。	A	・PTAについても、できるところはスリム化していくことは良い。参加しやすくなっていると思う。	・管理職 ・教務主任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○研修会を年6回行う。 ○子ども支援会議を年9回行う。	・研修会を実施する。 ・子ども支援会議を開き、情報共有を行う。 ・専門機関との連携を図り、必要に応じてケース会議を開く。	A	・2・3学期中に7回の子ども支援会議を行い、全職員で児童の様子や支援の共有ができた。 ・支援を必要とする児童について、ケース会議や面談等を行い、効果的な支援の方向性について話し合い、共通理解することができた。 ・巡回相談などの障がいのある子どもの学校生活支援事業を活用し、指導・助言を受け、支援の実践および改善を行った。	A	・支援会議を通して情報を共有したり、適切な支援について協議して体制を今後も継続してほしい。	・特別支援コーディネーター	
○社会に開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携 ○地域の「人・もの・こと」の活用	○年6回以上の学校公開、月2回の学校便り発行を行う。 ○学校ボランティアを募る。 ○保護者アンケートを実施する。	・郷土学習を継続し、地域人材の活用を行う。 ・地域行事(ふれあい祭り、文芸賞等)への参画を促す。 ・学校ボランティアを募り、社会に開かれた学校づくりのベースとする。	B	・学校公開については、コロナ対応のため2回の授業参観しか行うことができなかった。しかし、月2回学校だよりを発行し、HPで学年の様子を公開した。 ・郷土学習については、コロナ対策を講じながら実施することができ、地域人材の活用を行うことができた。 ・12月に保護者アンケートをとった(回答率76%)。改善項目については来年度に向けた取組を検討している。	B	・学校だよりは地域の回覧で見ている。学校の様子が分かって大変良い。 ・コロナ禍でできなかったことがいろいろあったと思う。このような状況でなければ、達成されたものもあり評価も上がっていたと思う。	・管理職	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・朝読書の取組や校内研究での取組により、落ち着いた学習態度で授業の臨むことができた。来年度も朝読書と主体的な学習への取組を継続していく。 ・心の教育については今年度の取組を継続しながら、道徳科の授業づくりを中心に道徳教育の充実を図っていく。 ・特別支援教育については、個に応じた支援の更なる充実を図る。
--------------------	---